

2024年度（令和6年度）

## 八丈島フィールド・スタディーズ活動報告書



実習期間：

1 班:8/19(月)～8/23(金)

2 班:8/26(月)～8/30(金)

3 班:9/ 2(月)～9/ 6(金)

参加人数：

12 名×3 班

担当教員

水越俊行（教職センター）

## 八丈島フィールド・スタディーズ報告書について

台風が接近する中でしたが、3つの班に分かれての八丈島フィールドスタディを無事実施することができました。2班、3班は台風のため予定を一部変更せざるを得ませんでした。関係者の皆様のおかげで、思い出に残る充実した活動を行うことができたことに心より感謝申し上げます。

FSのまとめの中では「楽しかった。」「初めての体験の中でたくさんのことを学んだ。」「八丈島の自然や人が好きになった。」「また来たい。」等の言葉が多く見られます。充実した八丈島FSだったことが分かります。これも、国民宿舎サンマリーナの浅沼明様、ロベ農園での農業体験を引き受けてくださった菊池国仁様・浅沼利光様、ふるさと塾で八丈島の歴史や文化について教えてくださった大澤幸一様、島寿司作り体験を指導してくださった成田国江様をはじめとした島の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

今回の八丈島FSでは、現地での体験活動や見学活動を受動的に終わらせるのではなく、「体験活動や見学活動を通して八丈島の歴史や文化、産業を知ること」。そして、自分が八丈島の一員として、「どのようにすれば、より八丈島を住みやすい地域にできるのか」「どうすれば、八丈島をより活性化できるのか」をテーマに設定し、そのための方策を立てることを目標にしました。学生のまとめの中には「予算的に実現が難しいもの。」「中長期的な取組が必要なもの。」「すでに取組が行われているもの。」等、実現が難しいものもあると思います。しかし、どの学生も、今回のFSで学んだことをもとに、自分なりに考えたものです。ご一読下されば、ありがたいと思います。

今年度の反省を活かして、次年度の活動を計画していきたいと思えます。

本当にご協力ありがとうございました。

担当 水越俊行

# 八丈島という島

文学部日本文学文化学科 2413010 沖田周真

## 【1日目】

私たちは飛行機で約45分かけて八丈島についた。着いた時湿度が高く、自分が住んでいる町との違いを感じた。空港についてからは八丈ビジターセンターに行き八丈島の特徴などを学び、その後ふるさと塾に向かい大澤さんから島の歴史や文化、方言についてかるたを用いて教えてもらった。



## 【2日目】

2日目はロベ農園に行き農作業の体験をさせてもらった。土に触れ、自然の中で作業を体験することによって普段とは違う生活のリズムを感じ、農業の大変さと豊かさを実感した。また、スイカやアイスをご馳走してもらい、八丈島の人々の優しさや温かさに触れることができ、とてもうれしかった。



## 【3日目】

3日目は島内巡りをした。その中で印象的だったのは豊かな自然の景観で普段自分が住んでいる町では感じることはできない自然を感じることができ未知の体験だった。また、その後は郷土料理体験で島寿司を握ったのだがそこでも島の自然の恵みと島の人々の暮らしの知恵を感じることができた。



## 【4日目】

4日目は黄八丈のめゆ工房に行った。めゆ工房では貴重な伝統工芸である黄八丈について多くのことを学ぶことができ、その独自の染めと織りの技術について、深い理解を得ることができた。夜はみんなでBBQをし、最後の日を堪能した。

## 【5日目】

帰りは約10時間かけてフェリーで帰った。5日があつという間に過ぎ、未知の体験だらけで新たな学びを吸収できて八丈島に来ることができて本当に良かったと心の底から思った。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

私が考えたアイデアは、「農業体験ツアー」や「黄八丈染織ワークショップ」などです。まず、農業体験ツアーでは、農家の方々の知識と技術を生かし、参加者が実際に農作業を体験し、自然と食の大切さを学ぶもので、この活動は、都会では得られない貴重な体験を提供するため、リフレッシュや食育にもつながる魅力があると考えました。また、黄八丈の染織体験では、職人の指導のもとで、伝統的な手織りの技術などを学ぶことができ、伝統文化に触れる貴重な機会を提供することができると思いました。さらに、島内巡りで得た自然や歴史を活かした「エコツアー」や「歴史ガイドツアー」などもよいと考え、そのツアーは、八丈島の壮大な自然や歴史的な背景を専門ガイドの方が案内し、観光業の活性化と地域の魅力発信につながると考えました。

## 八丈島の未来を拓く：ロベと八丈語による地域活性化戦略 文学部日本文学文化学科 2413011 小笠 誉貴

八丈島は、豊かな自然と独自の文化を持つ美しい島であった。一日目に訪れた牧場では、初めは濃霧に包まれて視界が全く効かず、不思議な感覚に襲われた。しかし、時間が経つと霧が晴れ、そこには絶景無比の風景が広がった。さらに、牧場にいた牛たちは非常に愛らしく、その背景と相まって、言葉では表現しきれない自然美を感じさせた。右側に掲載されている写真は、裏見ヶ滝温泉前から散策路に入った際の道中で撮影したものだ。この圧倒的な自然に囲まれた場所に足を踏み入れた瞬間、八丈島の豊かな自然の魅力を再認識すると同時に、ファンタジー世界に迷い込んだかのような感覚を味わった。



この五日間を通じて特に感じたのは、フェニックス・ロベレニー(以下、ロベ)の遍く使い道がもたらす可能性と八丈語の独特の音韻的特徴であった。ロベは八丈島の象徴的な植物であり、その多様な利用方法を通じて観光客を引きつけることができるだろう。また、八丈語は地域の文化や歴史を象徴する重要な要素であり、その普及を通じて地域のアイデンティティを強化することが可能だ。これらの地域資源を活用することで、観光資源としての価値を高めることができると推察される。そして、伝統産業に新しい運用を取り入れることで、地域の活性化を促し、経済的シンギュラリティを実現しつつ、赫き未来を築くことができると確信している。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島の地域活性化と住みやすさ向上を目指し、事業面と文化面の二側面から提案を行い、その具体的な実施方法や得られる効果について詳述していくとする。

初めに事業面から考えていこう。まずは、ロベのバイオマスエネルギーとしての利用だ。ロベの廃材を利用したバイオマス発電施設を設置することで、地域のエネルギー自給率を高めるとともに、環境に優しいエネルギー源として地域の持続可能な発展に貢献できるだろう。

次に、文化面から考えていく。私の注目点である八丈島特有の趣深い八丈語を使用して、地域の活性化に繋げたい。そこで提案するのが八丈語の脱出ゲームである。具体的には、八丈語を使った脱出ゲームを企画し、参加者が八丈語のヒントを解読して脱出するゲームを楽しむことで、自然に八丈語を学べるようにするのである。また、オンライン版を開発することで、遠方の人々に八丈島では無い場所でも、八丈語に触れる機会を設けられれば、地域の文化的魅力を広く発信できるだろう。

# 魅力の詰まった八丈島

文学部日本文学文化学科 2413200 鹿野ころ

## 【1日目】

私たちは飛行機に乗って1時間ほどかけて八丈島へ向かった。初めての八丈島だったので到着してとてもわくわくした。ふるさと塾に行き島の歴史や文化の話を聞き、八丈富士ふれあい牧場に行き昼食を食べた。タクシーを利用し大坂トンネルなどの八丈島の絶景が見えるスポットに行き充実した1日目を過ごすことができた。



## 【2日目】

めゆ工房に行き、自然の中にある葉などで染めた糸を使い実際に織っているところを見せていただくという、とても貴重な体験をした。その後足湯きらめきに行き、海を見ながら足湯に浸かって歩いた疲れをとった。心と体をリフレッシュすることが出来た。夕食は、チャーハンと野菜炒めを自炊した。班員と協力して作ることが出来た。



## 【3日目】

午前中は、雨の影響でスケジュール変更になってしまったが、空いた時間で班の人たちとレクリエーションをした。一気に距離を縮めることが出来たのでとても有意義な時間になった。そして午後は島寿司作り体験をした。島の方々が丁寧に作り方を教えて下さったおかげで、学びながら楽しく郷土料理を作ることが出来た。とても美味しかった。

## 【4日目】



ロベ農園で農作業をさせてもらった。日差しが強かったが、農園の方々がブルーシートで屋根を作ってくださったり、マンゴーやスイカを差し入れしてくださったりした。島の方々の親切心を感じることができた。そして、自由行動でサイクリングをした。私たちの班はジャージーカフェに行きプリンを食べた後 海岸に行き昼食を食べながらその場所で出会った旅行中のフランス人と交流しました。その後、空間舎に行き自然を感じながらかき氷を食べた。夕食はBBQをして4日間の振り返りをしながら島の方たちと最後の交流をした。充実した日々を過ごすことができた。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島をより活性化し、住みやすい場所にするために2つのアイデアを提案する。より活性化するためには、観光資源の再開発をするべきだ。例えば、ハイキング、ダイビング、星空観賞などの自然を活かしたアクティビティを充実させること。さらに、八丈島の歴史や文化を体感できる体験型観光プログラムを開発することで八丈島の独自の魅力を広めることができる。より住みやすい場所にするためには、IT関連の仕事を持つ人々や若い家族の移住を促進するために、住宅の提供や就職支援の制度を整備する。リモートワークの環境を整えるために、高速インターネットの整備や働きやすいカフェの設置なども挙げられる。これらの施策を組み合わせることで、八丈島の魅力を引き出し、住みやすく活気のある地域へと変革することができると思う。

# 大自然が魅力～八丈島～

経営学部経営学科 2420015 池田遥琉

## <1日目>

1日目は、八丈島に着いてから最初にビジターセンターへ向かった。ビジターセンターでは、八丈島特有の気候や八丈島に生息している昆虫や魚など、八丈島の生態系などを知ることができた。その次にふるさと塾に行き、歴史や八丈島が離島であることから生まれた独自の文化や言葉を学ぶことができた。またふれあい牧場展望台に行き島を見渡すことであらためて島の自然の凄さに気づいた。



## <2日目>

2日目は、ロベ農園にて農作業の手伝いを行った。農園の方から聞いた話によると、ロベの小さな苗が育つのに5年かかり、葉が取れるまで7年ほどかかるということに驚いた。農作業を通して、作業の難しさや大変さなどを身にしみて実感することができ普段の生活では味わえない、貴重な体験となった。



## <3日目>

3日目は、朝から島巡りをし、島の様々な魅力を発見しながら自然の美しさなどを堪能しつつ、各所を周った。夕方からは、地元の方々と一緒に郷土料理体験をし、島ずしや切り干し大根、乾燥芋などの料理を地元の方々から直接教えてもらいながら作った。また、これらの料理が、長い間この島で受け継がれてきた貴重な保存食であることを知り、島の食文化を学ぶことができた。



## <4日目>

4日目は、八丈島の伝統工芸品である黄八丈の見学に黄八丈めゆ工房に行った。工房では、歴史のある織り機を実際に使っている姿を見せてもらいとても貴重な経験になった。見学を通して染料の準備から、糸を染める工程、布として仕上がるまでに多くの時間と技術が費やされていることを知った。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

私が八丈島に行って思ったのは、交通手段があまりないので、車が重宝されることだ。そのため、観光客はレンタカーが必須であることが考えられる。だから私は、簡単に、気軽に借りることのできる「カーシェアサービス」を普及させたら良いと考える。数台の車を島に配置し、スマホアプリなどで管理をするなどし、安全にしようできるようにする。また、島の環境破壊につながらないように、電気自動車やハイブリットカーなどのエコカーを配置するようにする。そして、島の気候などを利用し、電気自動車の充電は太陽光パネルや風力発電などの再生化のエネルギーを使用することで、環境にも良いと考える。これらのことは、島の住民にも観光客にもエコな移動手段を提供することで、八丈島の発展につながると思う。

# 八丈島で過ごした5日間

経営学部経営学科 2420023 井出友希乃

## 【1日目】

飛行機で八丈島に向かった。1時間もかからず、そろそろ寝ようと思っていたら到着した。八丈島に到着し、まず歩いてビジターセンターに向かった。ビジターセンターでは八丈島の文化や自然について知ることができた。先生を待つ間にみんなで食べたジェラートはとてもおいしく、思い出の味になった。その後、ふるさと塾にて大澤さんの講話を聞いた。八丈島の歴史や八丈語について聞き、多くの知識を学ぶことができた。また方言かるたも楽しみ、実際に方言に触れられて良い経験になった。



## 【2日目】



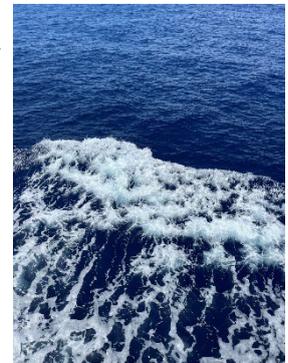
一日中ロベ農園で農作業をした。苗を掘り起こし、掘り起こした苗を鉢に入れ替えるという作業をした。ただ外にいただけでも汗が止まらないのに、長袖長ズボンで冷房も扇風機もない環境で作業するのは本当につらかった。作業の途中で冷たい飲み物や八丈島のスイカ、ハーゲンダッツなどたくさん差し入れをしていただき、本当に救われた。普段できない経験をさせていただいたおかげで、農業の大変さを知り、農家さんへの感謝を忘れてはいけないと気付くことができた。

## 【3日目】

自転車を借りて島巡りをした。ジャージーカフェにて、小笠原で有名なパッションフルーツや八丈フルーツレモンのフロートなどを飲んだ。そのあとサイクリングを楽しんでいるうちに八丈島の海が見えて、とても綺麗だった。午後は郷土料理体験をした。島寿司の甘めのシャリにからしという組み合わせは新しい感覚だった。また、きんぼしという乾燥させたさつまいもを小豆と甘く煮付けたものも食べた。本土にいるとなかなか食べる機会のないものを食べることができた。

## 【4日目】

黄八丈めゆ工房に見学に行った。実際に折る様子を目の前で見学させていただき、貴重な体験をした。その後は裏見ヶ滝にてマイナスイオンを感じることができた。昼食はやたけ製菓にて購入したサンドイッチとハンバーガーと赤飯を食べた。広い海を目の前にして食べるお昼ご飯はとてもおいしかった。夜はお世話になった方々とBBQをした。



## 【5日目】

フェリーに乗って帰った。10時間もフェリーに乗っているのは酔いそうで不安だったが、寝たり友達とトランプで遊んだりしていたらあっという間についていた。出発してすぐと到着する前の2回外に景色を見に行ったら、海の透き通り具合がわかりやすく違って面白かった。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島はとても自然豊かで魅力溢れる島である。しかし、八丈島の課題として観光客の減少が挙げられることも事実である。それは観光施設や交通手段が少ないことが原因だと考えられる。

八丈島をより活性化するためには観光施設を増やすべきだと考えた。暑い日や悪天候の日でも快適に過ごせる観光施設を増やすことで、観光客によりいい思い出を残すことができる。

また、交通手段を充実させることも必要だと考える。今回のFSで一番つらかったのが徒歩での移動であった。バスの本数を充実させたり、電動キックボードを普及させたりすることでつらい思い出をつくることを避けられるのではと考えた。

これらのアイデアで八丈島を観光客にとってより良い思い出をつくれる場所にするができるだろう。それは活性化につながるだろう。

# 八丈島での最高の経験

経営学部経営学科 2420093 柴田麻緒

## <1日目>

羽田空港から八丈島空港まで飛行機で向かいました。八丈島ビジターセンター、ふるさと塾、八丈富士ふれあい牧場展望台に行きました。ふるさと塾では大澤さんに八丈島の歴史を教えていただいたり、八丈島方言かるたをしたりと八丈島について楽しく学ぶことができました。ふるさと牧場の展望台からは八丈島全体を一望できました。山と海に囲まれた自然の中で4日間過ごすことがとても楽しみになりました。その後海に到着すると、海底が透けて見えるほどきれいな海にとっても驚きました。



## <2日目>

ロベ農園で農作業の体験をしました。ロベの鉢植えを農家の方に教えていただきながら行い、初めてやる作業と暑さの中で大変でしたが、農家の方からアイスやスイカなどを差し入れていただきとても貴重な体験となりました。台風の影響で4日目のBBQが中止となってしまったため代わりにその日の夕食にはお世話になった農家の方々も招いてみんなで好み焼きを振舞いました。BBQがなくなってしまったからと、大きな魚をさばいてくださりお刺身を堪能することもできました。初めて食べる魚でしたがとてもおいしかったです。



## <3日目>

班のメンバー12人全員で島内を自転車で巡りました。「キョン」を見に行ったり、ジャージーカフェで明日葉アイスを食べたり、ハンバーガーを食べたりと八丈島を満喫することができました。夕食には島ずしを作りみんなで食べました。お寿司を握るのは初めてだったため崩れないように握るのが難しかったです。わさびではなくからしを付けてお寿司を食べるのは初めてでしたが、とてもおいしく味わうことができました。戻ってからもやってみようと思いました。



## <4日目>

台風の影響で1日早くフェリーに乗って竹芝に帰ることになりました。船から見える八丈島の山や海はとてもきれいで感動しました。10時間船の中で過ごすのはきついのではないと思っていましたが、班のみんなとゲームや話をして過ごし、あっという間に着いてしまったように感じました。FSに参加しなかったら決して出会うことのなかった人たちと4日間過ごし、この夏一番の最高の思い出となりました。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島の人口は現在約 7,000人で、年々減少しており、少子高齢化が進んでいます。今回のフィールド・スタディーズを通じて、住民の皆さんがとても優しく、親切であることを実感しました。八丈島を訪れたことのない人は自然の魅力は SNS で調べることができますが、人々の魅力は伝わりません。これからの八丈島を活性化するためには海や山などの自然の美しさだけでなく、こうした人々の魅力を発信することが効果的だと感じました。InstagramなどのSNSを活用し、八丈島の美しい自然だけでなく、島の人々の日常生活も紹介することで、八丈島を訪れたいと思う若者が増えると考えられます。若者が増えることで島全体の活気が増えさらに魅力的な島になると考えます。

## 【1日目】

八丈島についてすぐビジターセンターへと向かった。そこでは八丈島の成り立ちや気候、鳥、昆虫、植物などの自然について学ぶことができた。その後ふるさと塾でカルタを通して八丈島の方言を知った。さらに、ふれあい牧場でははじめは霧が多く展望台から島を眺めることができなかったが、霧が晴れると牛がよく見え、展望台からは八丈島の自然を最大限に感じることができた。



## 【2日目】

バスでロベ農園に向かい、ロベ農園で農作業をした。ロベ農園に到着して最初に苗を掘り起こし、苗の植え替え作業を行なった。暑い中での作業だったため、島の方々がスイカやアイスクリーム、飲み物の差し入れをいただいた。島の方々の温かさを感じることができた瞬間だった。また、ロベは長い時間をかけて成長することや、沢山のコツなどを学び八丈島の代表的な農業についてより深く理解することが出来た。



## 【3日目】

電動自転車を借り、島巡りをした。ジャージーカフェに向い、ソフトクリームを食べた。サイクリングをしていくと海を見ることができた。海は綺麗に透き通っていて自然を楽しむことができた。また郷土料理の島寿司体験をした。島寿司の甘めの酢飯にタレのつけたメダイ、からしという組み合わせは新しい感覚だった。



## 【4日目】

バスに乗りめゆ工房に行き黄八丈の歴史や織り方を学んだ。実際に織っているところを近くで見せてもらい貴重な体験ができた。その後、無料で体験できる足湯きらめきや、やすらぎの湯に向かった。バスのチケットを購入するだけで多くの温泉が無料で入れるのは非常に良心的だと感じた。



## 【5日目】

フェリーに乗り1日かけて東京に帰った。綺麗な青色の海に見送られながら5日間の八丈島での思い出をふりかえりながら帰った。また八丈島を訪れる機会があったら島の人に会いに行きたい。この5日間で私はいくつも貴重な経験をした。見たことのない景色や知らない世界が八丈島には広がっていて新しい発見や学びの連続だった。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島に住むとしたら、観光業の仕事に就きたいと考える。なぜなら、自然豊かな八丈島の美しい景色や温暖な気候を訪れる観光客に、地元の魅力を伝えることができるからである。八丈島の地元の文化や伝統を守りながら、観光客に楽しい体験を提供したい。また、観光業は地域経済にも貢献し、地域の活性化につながる。観光業が活性化すれば、地域全体の活性化にもつながり、仕事の機会も増えるだろう。それにより、移住者や帰省者が増え、観光業だけでなく他の産業も発展すると考える。地元の人々や観光客と交流しながら、八丈島の魅力を広められるようにしたい。また、観光業は多様なスキルや知識を身につける機会が豊富である。観光客とのコミュニケーションやおもてなしの心、地域の歴史や文化に関する知識など、島ならではの心が温まるようなことをしたい。八丈島で観光業の仕事に携わることで、地域社会に貢献し、自分自身も成長できると考える。

## 思い出の島

経営学部会計ガバナンス学科

2421074 青木笙

### [1日目]

八丈島に到着し、午前中はまずビジターセンターへ徒歩で向かった。ここでは光るキノコを見たり、島の自然や環境についての動画を見たりして目で見て学んだ。その後ふるさと塾に行き、方言かるたを使って八丈島特有の言葉に触れて楽しく学ぶことができた。午後はタクシーを使って島の坂下を巡り、島全体をふれあい牧場展望台や大坂トンネル付近から実際に見て、映像では伝わりきれない道の高低差や気候の変化を感じることができて島についてさらに興味がわいた。



### [2日目]

午前中は歴史資料館、午後は島の坂上に行った。めゆ工房では黄八丈の歴史や作り方について学んだ。黄色・黒色・樺色の三色で織ることによって、シンプルでありながらとてもきれいな仕上がりで印象的だった。八丈ストアへ行くために坂下に向かったとき、坂上では晴れていたとは思えないほど雨が降っていて、これが島の天気なのだということを経験できて良かった。

### [3日目]

午前中は雨の影響でロベ農園での農作業が延期になり、宿舎での待機となった。しかし、その時間を有効活用してカードゲームなどをし、班の仲をさらに深めることができた。午後は島寿司作り体験を行った。普段ではすることのない作業に手間取ることが多くあったが、丁寧に教えてくださる島の人の優しさやあたたかさを感じることができた。また、島寿司にはわさびではなくからしを使うということで実際に食べてみると、思った以上に辛かったが島寿司との相性が良くとても美味しかった。



### [4日目]

午前中はロベ農園で農作業の手伝いをした。思ったよりもロベのとげが痛くて作業しづらかったが、仲間と協力してスムーズにやることができた。午後はサイクリングで坂下を観光した。様々なカフェを巡りスイーツを食べたり、海へ行って景色をゆっくりと見たりして八丈島を満喫することができた。夜には今までお世話になった方々とBBQを行い、楽しい時間を過ごすことができた。

### [5日目]

フェリーで約10時間かけて東京に帰ってきた。八丈島を出るとき、あきらさんに「さよならは言いません、いつてらっしゃい」と言われ、八丈島を離れるのがとても寂しくなった。この5日間は本当にあっという間だった。普段とは全く違う環境で予定の変更も多く、柔軟な対応が求められたが、仲間と協力することで乗り越えることができた。このプログラムを選んで本当に良かったと思う。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

まず、自然体験ツアーや文化・料理の体験プログラムを充実させ観光客の誘致を進める。これには海のアクティビティを活かしたツアーや、八丈島特有の食文化を紹介するイベントが含まれる。次にインフラの整備を強化する。交通アクセスを改善するため、フェリーや飛行機の運航便を増やし、島内のバスやレンタカーサービスを充実させる。また、公共の場や観光地に無料 Wi-Fiを提供し利便性を向上させる。また、地元のイベントや地域おこし活動を推進し、住民同士の交流を深めるとともに、住民参加型のプロジェクトを通じて地域振興に取り組む。このような取り組みが、八丈島のより良い発展・活性化に繋がるのではないかと考える。

## 八丈島での4日間

### データサイエンス学部データサイエンス学科 2422003 一倉陽菜

#### <1日目>

待ちに待った、八丈島FS初日！事前学修で出会った新しい仲間と新しい土地へと旅をするワクワクを胸に私は飛行機に乗りこみました。約1時間かけてやってきた八丈島は本土とは違う自然豊かな空気を感じ、私たちが快く歓迎しているようで、ほっとしたことを思い出します。初日は八丈島のことについて詳しく知るために、ビジターセンターへ赴いたり、ふるさと塾へ行き、八丈島の方言をカルタを使って学ぶことができました。夕方からは、みんなで自炊をしました。1日目の自炊は、焼きうどんになりました。チームワークを感じられてよかったです。



#### <2日目>

2日目は、ロベ農園でのロベの苗を鉢上げする作業をしました。作業をする前は、暑いなか農作業をすることに積極的ではありませんでしたが、みんなと楽しく会話をしたり、現地の人たちのお話を聞きながら作業するうちに楽しくなってきた、普段では味わえない高揚感があったことを覚えています。2日目の夕飯は、お好み焼きに農園の人の差し入れのお刺身、マンゴーなど豪華な食卓になりました。



#### <3日目>

3日目は電動自転車を借りて、島を自由に探索しました。植物園ではキョンを見に行きました。キョンはとても可愛かったです。お昼ご飯としてハンバーガーを食べました。普段では食べないパティ2枚のハンバーガーとマンゴースムージーを奮発して注文しました。お値段以上の美味しさでお店に来てよかったなと感じました。お腹を満たした後は、ハンバーガー屋の近くの海へ行きました。3日目の夕飯は島民の方に教えてもらいながら作った島寿司でした。みんなで協力して作ったお寿司は見た目の不恰好さを消し去るほど温かいものになりました。島寿司の特徴は、わさびではなくカラシで食べると聞き驚いて試してみました。とても美味しかったです。



#### <4日目>

台風が近づいているということで4日目にして帰宅のフェリーに乗り込みました。本来体験するはずだった、温泉など名残惜しいなと思うことがありましたが、その分フェリーの中でみんなとトランプでゲームをしたり、人狼ゲームをしたりして楽しい時間を過ごすとともに、このFSを振り返るように八丈島で撮った写真の共有などをして3日間に思いを馳せた時間になりました。

#### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

「八丈島公式観光アプリ」に八丈島近海の様子を発信するシステムを導入することを提案します。私たちが八丈島で過ごす中で、サンマリーナの方に「八丈島公式観光アプリ」があることを教えてもらいました。そこでそのアプリを実際に使ってみたところ、島内のタクシーの案内やイベント情報、島のお土産情報などを多く発信していることがわかりました。しかし、海の波の高さや、船の運行情報が無く海の状況を判断することがアプリからはできないというところが不便に感じました。私たちの班の日程では台風の影響が心配されていて、船の運行情報が簡単に手に入らないという面が気がかりでした。よって、「八丈島公式観光アプリ」に海の情報を記載することで、気軽に観光ができるのではと考えます。

## 都心では味わえない生活

データサイエンス学部データサイエンス学科 2422004 伊藤愛真

東京に属しているのにも関わらず、都心とは違った特有の気候・文化、歴史があり、島の名前を耳にする機会があったが、一切の情報や事前知識のない中行った八丈島FSでは都心には感じることができないさまざまな体験をすることができました。集団生活や学校で行なっている行事といった縛りの中で、言い合いやトラブルが起こってしまったが楽しく、これからの人生の中思い出に残る五日間を過ごすことができました。



羽田空港から約1時間飛行機に乗って八丈島に到着しました。

一面の海を想像していたら緑が多く山が広がっていたので少し驚きました。一日目では、ビジターセンター、ふるさと塾、八丈富士ふるさと牧場の他さまざまな八丈島の絶景スポットを巡り、一日目から八丈島の魅力を堪能することができました。

二日目には、八丈島の歴史資料館や、島の伝統工芸品である黄八丈を製作する工房や、足湯や温泉に行き八丈島の歴史や文化を知ることができた一日になりました。三日目には、二日目に予定していたロベ農園での農作業体験が雨で延期となり午前中はグループのメンバーとカードゲームなどをして交流し、また午後には島寿司を作る体験をしました。

四日目には延期していた農作業のお手伝いをし、八丈島の專業に触れることができました。レンタサイクルで島のカフェを巡り、さまざまな魅力を堪能した四日間になりました。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島は優しい島の人々や、豊かな自然を持っているのにも関わらずそれに触れられるようなプログラムや施設があまりないと感じました。自由行動で移動する際もカフェ巡りといった一定に固まってしまっていたので、八丈島特有の動物が観察できるようなバードウォッチングツアーや、綺麗な星空が見られるため星空観察をプログラムに入れた自然観察ツアーを提案します。その際にコンピュータを使用した星空の投影や、AIを利用した野鳥との遭遇確率などを算出することで天候が安定しない島の天気も楽しめるプログラムが作成できると考えました。

## 八丈島での最高の夏

経済学部経済学科 学籍番号 2427128 野口 結菜

<1日目>

飛行機で八丈島に向かった。空港について全員でおそろいのTシャツを買った。次にビジターセンターを訪れた。その後、ふるさと塾を訪れた。ふるさと塾ではかるたを使いながら楽しく島の方言を学ぶことができた。そして、タクシーに乗って八丈島の名所を巡った。海がとてもきれいで強く印象に残っている。夜はみんなで協力して焼きうどんを作った。みんなと会うのは2回目で不安だったが、自炊などを通して仲良くなることができ、嬉しかった。

<2日目>

2日目はロベ農園で農作業の手伝いをした。農作業はあまりしたことがなかったので初めは少し不安だった。しかし、島の方々が丁寧に教えてくれたので、楽しく作業をすることができた。私は午前と午後で違う作業をした。そのため、いろいろな作業ができ、良い経験になった。作業中にみんなとたくさん会話をするのができ、1日目よりもさらに仲が深まったと感じた。島の方々とたくさん話すことができた。農作業は想像していたよりも大変だったが、終わった後は達成感をすごく感じた。島の人々はほぼ毎日農作業をしていると聞き、労働の大変さを改めて感じた。夜はみんなでお好み焼きを作った。島の方々と一緒に夕飯を食べた。農作業の疲労が溜まっていたため、ぐっすり寝ることができた。

<3日目>

3日目は全員で自転車に乗って島を巡った。キョンを見に行ったり、ハンバーガーやカフェでソフトクリームを食べたり海に行ったりした。とても暑い日だったが、自転車を漕いでいると風を感じ、とても気持ちよかった。景色もとてもきれいで感動した。食べ物や景色などの八丈島の魅力を改めて感じる事ができた。自転車を漕いでいる途中で晴れていたのに、急に雨が降ってきて、八丈島の気候の変わりやすさに驚いた。夜は、島寿司などを作った。寿司を握るのはとても難しく苦戦した。島寿司はわさびではなく、からしをつけて食べた。とてもおいしかった。

<4日目>

台風の影響で1日早く帰ることになった。船に乗るときは、八丈島での4日間を思い出してとても恋しくなった。10時間ほどかけて船で竹芝に帰った。船の中ではほとんど寝てしまった。夜に外に出ると、ディズニーシーやレインボーブリッジなどの夜景を見ることができとてもきれいだった。船での移動は時間がかかるが、外に出ると爽快感があり、また、きれいな景色を見ることができるのでとても良い時間を過ごせた。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

私が考える八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデアは3つある。1つ目は、電車を開通させることだ。八丈島には電車がなく、移動手段が限られていた。基本的にはタクシーを使ったが、台数が限られていたため、待つこともあった。またバスも利用したが、本数が少なかった。そのため、電車があれば移動が便利になり、さらに住みやすくなると感じた。2つ目はコンビニエンスストアを建てることだ。夜に何か買いたいものがあったとしても店が開いていなかった。だから、コンビニエンスストアなどの24時間営業の店があると、深夜帯の買い物などをすることができ、住みやすくなると感じた。3つ目は、スーパーマーケットなどの店舗を増やすことだ。買い出しから帰ってくる時もタクシーを利用するなど近くに店がなく、買いたいものがあったとしても気軽に買いに行くことができなかった。そのためスーパーマーケットなどの店舗を増やすことで住みやすくなると感じた。

# 私の八丈島記録

人間科学部社会福祉学科 2433024 金子望音

## 【1日目】

1日目、私たちは八丈島につき、まずビジターセンターに向かった。島の自然について学んだ。その後、ふるさと塾に行き、大澤さんから島のことや、私たちの歴代のFSについてなどとても魅力的なお話を聞くことが出来た。その後みんなで島の方言を使ったかるたを行った。聞いた事のない言葉を楽しくみんんで知ることが出来、非常に楽しく為になる時間を過ごすことが出来た。そのあと、ふれあい牧場に行き牛を見た。自然の多いところでのびのびとしている牛や、展望台から見える八丈島1面の景色を見て、普段とは全く違う自然豊かで美しい景色を堪能することが出来てとてもいい時間を過ごすことが出来た。



## 【2日目】

この日はロベ農園で農作業のお手伝いをした。暑い中島の方と植木鉢を並べる作業と、鉢に入れる作業を行った。暑く大変だったが、島の方と交流を深めたり、ひとつの事にみんなで集中し、楽しく行うことが出来、普段の生活では体験しないことが出来いい経験となった。汗をかきながらひとつのことに集中することで島の方々の活動に対してありがたいさや大変さを身で感じる事が出来た。農家の方からスイカを頂いた。汗をかいた後だったのでとても美味しく、頑張ってたかったと感じた。

## 【3日目】

3日目は、自転車进行班のみんなと島の中を散策した。これは八丈島に行くにあたって私が1番楽しみにしていた事だ。昼食は海の真ん前にあるハンバーガー屋さんに行った。とても美味しかった。そのあと海浴いに行き夏を感じた。そのあとジャージーカフェに行きソフトクリームを食べた。とても濃厚でおいしかった。自転車でのハイキングを通して島を体感することが出来た。暑かったが山の方へ行ったり自転車で坂を下がったりしたおかげで涼しくなった。夜ご飯では島寿司を頂いた。島の方に材料を用意して頂き、島特有の漬けられたお寿司を食べた。初めて食べるお寿司でとても美味しかった。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

私が八丈島に住むとしたら、農業をやり、島の人以外にも八丈島の特産物を広めたいと考える。ロベの生産を重要視している八丈島では農業は無くしてはならないものであることが分かった。また、八丈島はスーパーが少ないので野菜などの作物を沢山育てることによってスーパーで直売し新鮮な野菜を新鮮なまま販売することができると思う。また、より知ってもらうには体験ができるようにすると思う。私たちが体験させて頂いたように、体験を通して農業の良さを島民や観光客にさらに知ってもらえると思う。また、ふるさと塾で行なったかるたや現地の方を通して方言を知ってもらうことも八丈島を知ってもらう一つの機会だと思う。例えば、観光客に方言だけで案内を行ったり、方言が沢山書かれたパンフレットを渡したりすることで楽しく知ることができると思う。

# 八丈島BLOG

## ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科 2434018 美野朱香

<1日目>前日まで台風の影響で八丈島に行けるのか不安だったが、無事にたどり着くことができた。1日目で特に印象に残っている体験は、ふるさと塾で「八丈語」を学んだことである。存在自体知らなかったため、とても興味深かった。その八丈語で作ったかるたを体験してみると、何を言っているのか理解できないものもあり、とても楽しく八丈の文化を学ぶことができた。その後、八丈の名所を巡った。海がとても透き通っていて見ているだけで癒された。初日は、八丈の雰囲気や、島での生活を知ることができた1日だった。



<2日目>最初に訪れた八丈支庁では、八丈の歴史や文化、土地について学んだ。400年おきに噴火しており、もうすぐで前回の噴火から400年が経過するという話を聞き、避難の方法や対策はあるのかを聞いてみると避難訓練や特別な対策などは行っていないとのことだった。また、温泉がまとまっている理由が観光が関係していたことなど、調べてもわからないことを聞くことができた。めゆ工房では黄八丈の歴史や実際に織っているところを見学させてもらった。手作業で行われていることにとっても驚いた。



<3日目>この日はロベ農園に行き作業を行う予定だったが、強い雨で午前中が待機になってしまった。しかし、雨だったおかげで今まであまり話してこなかった一緒に生活している人たちと交流する機会ができた。カードゲームやみんなのできる簡単なゲームをして仲を深めることができた。午後は、島寿司づくりを体験した。島寿司はからしをつけて食べるということを知ってとても驚いた。普段はからしを食べないが、貴重な体験だったので、からしをつけていただいた。八丈島に来なければ知ることはなかったことを知り、みんなで協力して作った食事はとてもおいしかった。



<4日目>2日目、3日目は雨だったが、やっと天気良くなったので農作業を行った。ロベ農園でロベの苗をポットに分ける作業を行った。音楽を聞きながらみんなで楽しく雑談しながら作業することができた。また、差し入れでスイカやマンゴー、冷たい飲み物をいただき、島の方の温かさに触れることができた。また午後は自転車で島めぐりをした。隠れ家のカフェに行っておいしいスイーツを食べたり、みんなで海を眺めたりと最高の時間を過ごすことができた。



<5日目>この5日間でたくさんの島の方々に関わることができ、あたたかさに触れることができた。ロベ農園での農作業や島寿司づくりなど貴重な体験もたくさんさせてもらうことができた。これらの体験だけではなく、共同生活から学んだこともある。自炊で意見が合わずギクシャクしたり、時間を守らずに怒られたりとうまくいかないこともあった。この共同生活から人とコミュニケーションをとることの大切さ、適切な距離の保ち方など学ぶことができた。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島の魅力を存分に活かした「足湯カフェ」を提案する。わたしは、ウェルビーイングについて学びを深めているため、「人と人のつながり」をテーマに考えた。八丈島を活性化するためには、八丈島の魅力を島民ではない人に伝えることが必要だと感じた。観光客と島民が自由に交流できる空間があれば、八丈島の方たちのあたたかさに触れながら魅力を知ることができるため良いのではないかと考えた。木や海、足湯と自然を感じながらお茶したり、スイーツを食べたりと、リラックスした状態でコミュニケーションをとることができる。島民にとっても憩いの場となればもっと素敵な島になるのではないかと考えた。

## 5日間の軌跡

ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科 2434085 林 大希



### 【1日目】

八丈島に上陸した初日、その日は今までとは全く違う環境に馴染もうとするので精一杯でした。周りの自然はもちろん、行き交う人々の感じも東京と比べて何となく違って見えました。島に来たばかりの時はおそらくこの「何となく」と抱く感情が多くて、ここから始まるFSの中でその「何となく」を具体化しようとしていたように思えます。

### 【2日目】

2日目、ロベ農園での農作業でした。ウェルビーイング学部で畑実習はしたことがあっても、ここまで本格的なのは初めてでした。最近では米不足が騒がれていますが、それとも関連付いて普段の食卓に並ぶ料理までの道のりを実際に体験することで実感して、ありがたみを再確認できました。差し入れてくれた冷たい飲み物やスイカの美味しさは、この先味わえるかどうか分からないぐらいのものでした。それぐらい貴重に感じる体験でした。



### 【3日目】

各グループの島巡りだった3日目。「島巡り」という言葉自体、本土ではまず使わないのですごくワクワクしていました。島の端から端を横断するための道路を自転車で駆け抜けた時はなぜか心から八丈島を感じられる瞬間のひとつに思えました。八丈島を感じるという点で言うと、本土よりも活発な虫の活動を見ていると離島ならではの生態系だと思えてより八丈島を感じられた気がします。

### 【4日目】

島の中で引き継がれている伝統をより一層体感できた日でした。島民の島に対する愛があってこそ今の八丈島の姿と思えて、今愛されている伝統を継いでくれる人が居るのかどうかという心配の気持ちも芽生えてきました。それと同時にこの日は八丈島の地形を身に染みて感じられた日でもあり、斜面の上り下りがとても過酷でした。島民の子どもによっては通学路にもなるかもしれないと思うとその大変さがますます伝わってきます。



### 【最終日】

残されたことは船に乗って見えなくなるまで八丈島を見届けるだけになってしまった日でした。単に八丈島に旅行するというだけではできないようなこと、つまりこのFSならではの体験ができたので、本土の東京に戻ってもこの八丈島での思い出、感じ取ったことを忘れないようにしたいです。きっと島の人たちもそんなことを願いながら僕たちのことを迎えてくれたと思うからです。またいつか行きたいし、八丈島唯一無二の発見・学びを探しに行きたいです。

### 八丈島の活性化

実際に聞いた島民の話によると、島に居る子どもは就職先を求めて島を出ることが多いらしいです。手に仕事をつけるために若い人たちが出て行くということは伝統の担い手が居なくなることで将来的に伝統の規模が収縮するかもしれません。若者は仕事を見つけるために島を出るので、島の外で仕事を探す必要がないくらいに島の産業を大きくする仕組みを考えていくことが必要だと感じました。八丈島に来るだけでは今回のような島民から話を聞いたりするといった体験はできないので、今回のFSで八丈島の自然に触れられて島の人と色々なことを通して接せられた僕たちがその良さを忘れないようにすると同時に、伝統・産業の保護について考えていくという気持ちを持つことが大切だと感じました。

## 非日常的な生活から考えたこと

教育学部教育学科 2437030 田村悠利

【1日目】 早朝から始まった八丈島 FS だった。羽田空港を離陸してから約1時間で八丈島に着陸した。最初に八丈ビジターセンターに行き少しの間休憩した後でふるさと塾に向かった。ふるさと塾では八丈島の言葉は方言ではなく八丈語という括りになるという新しい知識を得た。さらに八丈語を利用したかるたでは実際に使えるような八丈語も学ぶことができた。



【2日目】 2日目は1日中ロベ農園で農作業のお手伝いをさせてもらった。1日中農作業することは今まで体験したことのない経験だったので、農家さんの過酷さを知る1日となった。疲れ切った後のスイカは格段に美味しかった。



【3日目】 3日目は自由行動の日だった。サイクリングを使い、島で生息しているキョンという動物を見に行ったり、海を見に行ったりした。底土港の近くにあるハンバーガー屋がとても美味しかった。午後からは郷土料理の島寿司をみんなで作った。おばあちゃんが一生懸命に教えてくださったので私たちも美味しいものを作ろうと必死だった。みんなで協力して作ったので島寿司だけでなく、その他の副菜なども美味しかった。



【4日目】 急遽台風の影響で早く帰ることになった。4日目に行く予定だったBBQなどは出来ず、この日に乗船して八丈島をでた。1日短くなってしまったことを忘れてしまうほど充実していた4日間だった。

船での移動は約10時間かかるが、船内では時間を忘れみんなでゲームをしたり、熱い話をしたりした。本当に10時間の内、1回もスマホを触っていないと言っても過言ではないくらいスマホデトックス状態で楽しかった。



### 『八丈島に住むとしたら』

八丈島に4日間滞在してみて一番感じたことは島の人々の暖かさだ。みんな友達みたいに仲良かったし心優しい人が多いのだと感じた。一方で、島を回中でこどもが遊べる場所が少し少ないのかなと思った。このことから私ならカラオケ店を営業すると思う。カラオケ店ならあまり場所も取られないので地元の子どもたちが集うような場所になったらいいと思う。

## 八丈島を体験して

教育学部教育学科 2437041 初瀬菜々美

私は今回東京都八丈島 FS に参加して感じたこと学んだことがいくつかある。まず、ふるさと塾では八丈島ふるさと観光大使の大澤幸一さんから八丈島は、豊かな自然と独自の文化がある島であることや八丈島の方言に地域の人々の生活や歴史を反映していることなど八丈島自体がどのような島であるかや八丈島の方言についてたくさんお話して下さり、今まで知らなかった八丈島についてたくさんの知識を学ぶことが出来た。実際に方言カルタを通じて、八丈島の方言に触れることができたのはとても楽しい体験であり、わたし的には蚊のことを「かぶめ」ということに驚きを覚えた。さらに黒潮の影響で、八丈島にはさまざまな文化が流れ込んできたことも知ることができ、黒潮の温かい海流により多くの人々や物が島に訪れ、交流が生まれ今の八丈島があることを知り、このような歴史的背景を知ることで、八丈島の文化がどのように形成されてきたのかを理解する手助けとなった。

2日目のロベ農園では、最初に苗を掘り起こし、苗の植え替えを手伝う経験をすることができた。その中で農園の人と会話を重ね、ロベが長い時間をかけて成長することや、この八丈島の産業を支えていること、苗を植え替える上での沢山のコツなどを学び八丈島の代表的な農業についてより深く理解することができ、とても興味深いものであった。

3日目は自転車を借り、島巡りをした。ジャージーカフェに行きとても濃厚なソフトクリームを食べ、八丈島の青い海を堪能することができた。また島の方と郷土料理体験をし、八丈島の郷土料理である島寿司と切り干し大根ときんぼしを作った。島寿司の甘めの酢飯にからしという組み合わせは新しい感覚で、タレに漬けたメダイを乗せた島寿司はとても美味しいものであった。さつまいもを乾燥させたものを小豆と甘く煮付けて食べ、島ならではの保存食の食べ方に驚いたがとても甘くて食べやすく島寿司もきんぼしも八丈島の歴史や文化を感じることができた。都内にいるとなかなか食べられないものを食べることが出来て貴重な体験ができた。

4日目は黄八丈めゆ工房で黄八丈についてたくさんのお話を学ぶことが出来た。黄、樺、黒という3色と柄の模様である美しさを出すことができるのかと作業光景をずっと見ていられるほど目を奪われるものであった。作業工程もものすごく細かいもので 1500本の色を全て手作業で織っている知り、黄八丈の価値をものすごく感じる時間であった。この5日間を通して八丈島の自然と歴史、文化を様々な体験から学ぶことが出来てわたしにとってとても貴重な体験になった。そこから八丈島の活性化に繋げて行きたいと考え、わたしは黄八丈を島の外に大きく知ってもらいたいと考えた。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

わたしは八丈島の黄八丈の美しさをもっと知ってもらうために SNSを用いて日本や、世界に広めることを提案したいと考える。黄八丈の制作光景は本当に目を惹かれるものであり、人々の興味や感心に刺さるものがあるのではと感じ、そこから八丈島の黄八丈について知ってもらい着てもらう機会を増やすことで八丈島の活性化に繋がるのではないかと考える。私自身も、黄八丈にて心を惹かれ興味関心を持ち周りに話して黄八丈の美しさをもっと広がっていくような活動をしていきたいと思う。

## これからの子どもたちに伝えていきたい八丈島の魅力

### 教育学部教育学科 2437133 牧あおい

<1日目>

羽田空港から約30分で八丈島に到着した。最初に行ったビジターセンターではクイズやゲームを用いながら非常に楽しく八丈島の歴史を学ぶことができた。ふるさと塾では、大澤さんのお話を聞くなかで同じ東京都の中でこんなにも文化や歴史が違うことを実感した。その後はふれあい牧場に行った。牧場に到着した時は、前が見えないほどの霧に覆われていたが、牛を見ている間に霧が晴れ、八丈島全体を見渡すことができた。このように、すぐに天候が変化するところも都内とは異なり興味深かった。



<2日目>

ロベ農園に行き、ロベの苗を1つずつ植え替える作業を行った。農園に行く途中では、大きなオクラやスイカを見ながらお話を聞いた。食べ物1つにも大きな違いがあることに衝撃を受けた。また、ロベ農園では、ロベのお話を聞き、こんなにも長い年月をかけて大切に育てていることを初めて学んだ。そして最も驚いたことは、全ての工程を工場の機械ではなく手作業で行っているということだ。機械化が急速に発展している現代で、改めて手作業で行うことの大切さに目を向けたいと強く感じた。



<3日目>

自転車をお借りして八丈島を散策した。八丈島のお店で多く取り扱っている有名なパッションフルーツを食べたり、自然の景色を見たりしながら八丈島全体の空気を感じることができた。移動している途中には「八丈ブルー」と呼ばれるほど綺麗で透き通っている海を見た。帰りの船で見た東京都内の海と比べると、色に大きな違いがあった。八丈島と都内で違いがある理由は、工場などから出る排水や廃棄物に有害液体物質など化学物質が多く含まれており、これらが海洋を汚染するからだ。このことから八丈ブルーは地域の皆さんの努力によって守られていることを学んだ。郷土料理体験では、島寿司のことを学びながらみんなで協力して楽しく作ることができた。



<4日目>

最初に、めゆ工房に向かい黄八丈について学んだ。伝統ある文化に触れる機会が少なくなっている中で、実際に織っているところを拝見するという貴重な体験ができたことが大きな学びになった。BBQでは今までお世話になった方たちと交流することができて非常に嬉しかった。



<5日目>

最終日は約10時間船に乗り、竹芝に向かった。常に外の景色を見ていたため、八丈島から他の島を経由し東京都内に戻る際の景色の変化を感じた。この5日間で貴重な経験、体験をさせていただいたことは私の中で大きな成長につながった。八丈島で沢山の優しい方々に出会い学んだことを、今度は私が伝えていく番である。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

私は八丈島を活性化させるために東京都内の子どもたちと八丈島をつなげるプロジェクトを考案する。現代は急速な都市化や機械化に伴い、子どもたちが直接自然に触れ合ったり、地域の方々との交流が希薄化している。このような時代の中で、八丈島で農園のお手伝いをしたり歴史や伝統のお話を聞いたりするという機会は非常に貴重であり、子どもたちの教育にも求められているのだ。また、八丈島では若年層の減少が懸念されているということもあるため、子どもたちに八丈島の魅力を知ってもらう機会は双方にとって非常に大切であると考え。インターネットが普及し沢山の情報を得られる時代の中で、子どもたちには綺麗な海を見て感動したり、スイカの甘さに驚いたり、色んな体験をしてほしい。そして、実際に見たり感じたりしたことは大人になっても大切な思い出になるだろう。

# 離島の魅力を再発見

教育学部教育学科 2437144 稲垣愛美

## 【1日目】

人生初めての八丈島に上陸。まず、ビジターセンターに向かい、島の自然などを学んだ。そして、ふるさと塾で大澤さんのお話を聞き、八丈島の方言や歴史などの八丈島についての理解を深めたあと、ふれあい牧場へ。八丈島を一望でき、遮るもののない開放的な景色に圧倒された。牛たちものんびり過ごしていて時間の流れが普段よりも遅く感じられた。八丈島での活動が楽しみになるような、そんな一日だった。

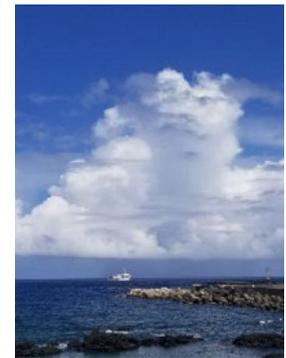


## 【2日目】

朝からロベ農園にて農作業のお手伝いをした。想像していたよりも過ごしやすい気温だったため長時間の作業も楽しくできた。また、島の方たちが本当に親切に作業工程を教えてください、気さくに話しかけてくださったりして嬉しかった。スイカや飲み物などの差し入れもいただき、島の方たちの優しさを身に染みて感じた。最後には達成感を味わうことができた。

## 【3日目】

午前から電動自転車で島内を走り回った。キョンを見に行ったり、透き通った海を見たり、カフェに行ったり、八丈島ならではの体験をたくさんした。底土港で見た空がとても青くきれいだった。夕方からは島の方々の指導のもと、島寿司づくり体験をした。普段なら食べることのできない魚を食べることができてとても嬉しかった。また、島寿司だけではなく、ほかの副菜もみんなで作った。共同作業をすることで更に仲を深めることができたと思う。島の自然の豊かさ、文化を改めて感じることもできた。



## 【4日目】

台風前ということで予定より一日早く帰路へ。充実した3日間で、八丈島を離れるのがとても名残惜しかった。約10時間のフェリーは大変なこともあったが、良い経験になった。船から見えた夜景はとてもきれいだった。このメンバーみんなと過ごした4日間は本当に楽しく、かけがえのない思い出になった。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

私は、教育学部に所属していて小学校教諭を目指しているため島内の小学校に勤めて子どもたちがより良い教育を受けられるようにサポートしたい。今回のFSを通して、この壮大な自然は島でしか体験できないものであり、私たちにとってどれだけ素晴らしいものを学んだ。だからこそ、この自然を活かした授業を行ってみたいと考える。また、島には不便な一面もあるため、移動をする際や、買い物をするときなど、さまざまな場面で自発的な力が必要になる。その力を向上させるサポートもしていけるように努めたい。

初めて八丈島を訪れて、島の方たちの優しさに触れ、八丈島が大好きになった。八丈島に行けてよかったと、心から思う。また必ず、訪れたいと思う。

## 島での生活

教育学部教育学科 2437150 北島遼

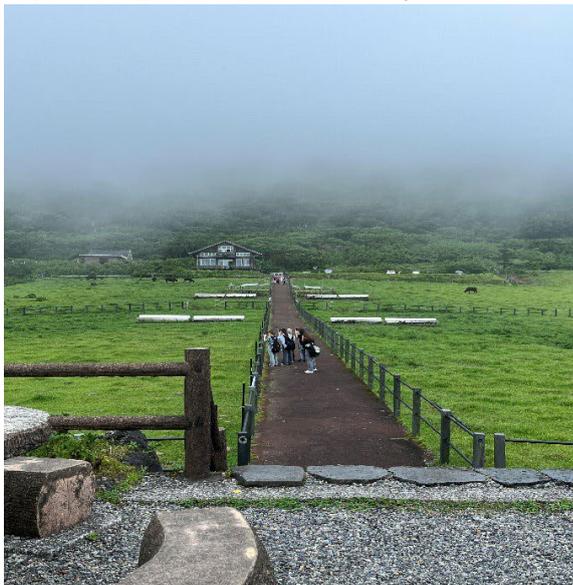
[1日目]朝早いことや二度目の顔合わせということへの不安を感じながら八丈島へ出発した。八丈島へ着くと、本土との気候の違いを感じた。八丈島はすごく湿度が高く、蒸し暑いという印象だった。ビジターセンターでは八丈島のことたくさん書かれていた。とれる魚や虫のことなどいろんなことを学べた。ふるさと塾でも面白い話をたくさん聞けていい経験になった。牧場では、普段の生活で見ることのない、牛を近くで見ることができてよかった。1日目からすごく自然を感じた。

[2日目]ロベ農園で農作業をした。朝早くから虫に苦戦した。作業もとても大変でこの気温の中毎日やっていると考えたら本当にすごいと思った。差し入れや歌を聞けて大変だったけどその分楽しかった。

[3日目]電動自転車で島内を観光した。海沿いの道は風も気持ちいいし海もきれいで八丈島の良さを感じた。そのあとカフェに行った。八丈島のカフェにはいつも明日葉を使った飲み物や食べ物があり、明日葉が有名だということを知った。島寿司はふつうのお寿司とは違ってネタを漬けることを知った。

[4日目]黄八丈を作っているめゆ工房に行った。機織り機など普段では全く見ることはできないものを見てとても新鮮だった。実際に使っているところを見て、本当に丁寧に作っていてカッコいいと感じた。パン屋のパンはおいしかった。

[5日目]お世話になったあきらさんに別れを告げ、船で出港した。船から見える景色はとてもきれいで島ならではの海のきれいさを感じた。時間があつたので八丈島でのことを思い出していると、島の人みんな優しく、いい人だなと感じた。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島を活性化させるためには、観光と地域資源の活用が鍵です。まず、自然や温泉、伝統文化を強調したエコツーリズムや体験型観光を推進します。地元の特産品や料理を活かしたグルメツアーの開催も有効です。さらに、リモートワーク需要に応じたワーケーション環境を整備し、都市からの短期移住者を呼び込む施策も重要です。地域の若者や移住者の起業支援を通じて、地域内の経済循環を促進することも活性化につながります。

## この夏で得られた財産

教育学部教育学科 2437152 小林まどか



### [1日目]

1日目は羽田空港から約一時間かけて八丈島空港に到着した。その後、ビジターセンターとふるさと塾へ伺い八丈島の歴史について学んだ。ふるさと塾の大澤幸一さんから八丈島の歴史や八丈語について丁寧に教えていただいた。また、八丈語カルタを用いて学んだことで今まで知らなかった八丈島について自分の身をもって深く知ることができた良い体験となった。午後からはふれあい牧場へ行き、展望台から八丈島の景色を一望し、心が浄化された気分になった。

### [2日目]

2日目は歴史民俗資料館やめゆ工房に行き五感を使い八丈島の歴史や文化について学んだ。めゆ工房では目の前で作業をしている場面を見せていただき一つ一つの作品に真摯に向き合っていることを実際に感じることでとても感動した。黄八丈は昔納税品として使用されていたほどとても高価なものであり、東京都の無形文化財に指定されていることを教えていただきそのような貴重な現場を見ることができとても良い体験となった。その後、足湯きらめきへ行き、海を一望しながら足湯に浸かることができ、幸せな体験となった。



### [3日目]

3日目は雨の影響で午前中の活動がなくなり、午後からの活動となった。午後からは現地の方々と島寿司作りを行った。島寿司は今までの食べ方とは異なり、ネタを先に醤油につけカラシをつけて食べるというものだった。島寿司を食べる前はカラシとお寿司が合うのかどうかわからなかったが、実際に体験してみるとカラシがないと物足りないと感じてしまうくらいハマってしまい、この体験がなければ出会うことのなかった組み合わせを知ることができてとても良かった。



### [4日目]

4日目は午前中にロベ農園での農作業を行った。ロベは花の添え葉として使用されており、日本で使用されているロベのうち約98%がこの八丈島で栽培されているものだというのを知りこのことを島外にも広めたいと感じた。午後はグループでの島内サイクリングを行い、カフェ巡りをした。島内は複雑な地形をしているためアップダウンがきつクサイクリングはとても大変であったが、とても綺麗な景色を見ることができ良い思い出となった。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島をより活性化するためには私たちが行ったFSのように島外からの学生を多く呼び島の伝統産物や伝統産業を島外に広めることが良い策だと考える。今回のFSで学んだ黄八丈や八丈語といったことは誰かが伝えていかなければ途絶えていってしまうと感じたため実際に現地へ行き、体験したことをまだ島を訪れたことのない人に向けて発信することが大切だと感じた。

八丈島をより住みやすい場所にするためには、移動販売スーパーを行うことが良いのではないかと考える。なぜなら、八丈島は複雑な地形をしており、車がなくては移動がままならないと感じる場面が多くあったため、幅広い世代の人に八丈島で生活してもらうために、移動式スーパーを推進したいと考えた。移動式スーパーがあるのなら八丈島の良い景色が一望できる高台に住む人が増えそれと同時に活性化が見込めるのではないかと考えられる。

## 自然と暮らす

教育学部幼児教育学科 2438039 杉浦璃子

(1日目) 早朝羽田空港に集合して、飛行機に1時間半乗って八丈島に向かった。到着後はビジターセンターで八丈島の歴史について学びその後にはふるさと塾にて貴重なお話をたくさんして頂きとても有意義な時間を過ごすことができた。そしてふれあい牧場に向かい牛を見ながら展望台に向かい島の街並みを見下ろした。八丈島についてたくさん知ることができた1日だった。

(2日目) この日はロベ農園の農作業を体験させていただいた。ロベというのはフェニックスロベレニーという観葉植物のことで、作業内容は5年育ったものをひとつずつに分けて植えなおすというものだった。文字にすると簡単に聞こえるが実際は暑さもありとても過酷なものだったが、休憩の時間には島の方からアイスやスイカの差し入れをいただき最後までやり遂げることが出来た。そしてこの日に台風の影響で安全を考慮し1日早く島を出ることが決定した。4日目には島の方々も招いてBBQをする予定だったためBBQは出来ないものの夕食は島の方々と共にした。急であったのにも関わらずたくさんの差し入れをしていただき島の味覚を感じられた。とても濃い1日になった。

(3日目) この日はグループに分かれてサイクリングをしながら八丈島を回るというものだったが、班全員仲が深まっており12人全員で島を巡った。2日目の夕食で島の方からビジターセンターにはキョンという動物がいるという情報を聞き、キョンに会いに行った。実物のキョンは想像より小さくてとても可愛かった。その後海辺にあるハンバーガー屋さんに行った。とてもボリュームでアメリカンなハンバーガーで食べ応えがあり美味しかった。おなかいっぱいになったら近くにある海でみんなと写真を撮ったりして楽しんだ。夏ならではのことができて楽しかった。最後にカフェでアイスやドリンクを買い、談笑しながらゆっくりした。サイクリングをしている中で急に雨が降ったりやんだりすることがあり、ずぶ濡れになりながら自転車を漕いだりもした。島の天候の不安定さも感じられた1日だった。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島をより活性化、より住みやすい場所にするためには、観光資源の開発を進めることが必要だと感じました。八丈島の美しい自然環境やパワースポットを活かした観光プランを策定し、観光客の誘致を図ります。また、地域の特産品を積極的にPRして八丈島ならではの魅力をSNSなどに発信することが有効だと考えました。

## たくさんの魅力

教育学部幼児教育学科 2438044 高橋杏実

八丈島FSを終え、最初にしたことは、行って本当に良かったということでした。行く前は、初めてあった人たちと、一緒に4泊5日も島で過ごし、さらに自炊も必要だと聞いて、とても不安に感じていました。しかし、1日目、2日目と日が経つにつれ、次第に仲が深まり楽しく4泊5日を過ごすことが出来ました。

<1日目>



八丈島に着いた時、東京の本土とは異なる蒸し暑さと高い湿度を感じました。ビジターセンター、ふるさと塾では、八丈島がどのような島なのか、八丈島の方言や文化、八丈島の知識を沢山学ぶことができました。午後は、ふれあい牧場で特別な体験をすることができました。最初は霧が濃く、周りが真っ白でした。しかし、お昼ご飯を食べ始めると、徐々に霧が晴れていき、八丈島の自然の美しさを存分に楽しむことができました。この体験は、八丈島の魅力を再確認させてくれるものであり、また訪れたいと思わせる素敵な思い出となりました。

<2日目>

ロベ農園での農作業では、農業の大変さを体感しました。1つの売り物を作るのに7年もかかるということを知り、その結果、農業がいかに時間と労力を要するかを実感しました。とても暑く大変でしたが、農園の方や友人と協力しながら、楽しく作業することができました。農業は、大変な面もありますが、友人と一緒に汗を流しながら、作業することで、達成感や充実感を味わえるのが魅力だと感じました。

<3日目>

自由行動では、カフェや喫茶店、海や宗福寺に行きました。カフェや喫茶店を巡り思ったことは、どちらのお店も共通してパッションフルーツを取り扱っていたことです。八丈島の気候を生かしながら、一般的には栽培が難しいパッションフルーツを育てられるのは、とても魅力的だと感じました。また、サイクリングを通じて、八丈島は坂が多いと感じました。急な坂を登るのは大変でしたが、海沿いを走る時は、潮風がとても心地よかったです。八丈島の海はとても透き通っていて、今までみた海で一番綺麗な海でした。



<4日目>

めゆ工房では、黄八丈について学んだり、古い織機を見学させていただいたり、貴重な体験をすることができました。数多くのお話の中で、特に黄八丈の色に関する話が印象に残りました。黄八丈は3色しか存在せず、何度染めるかで色を変えているというのは、とても興味深い手法だと思いました。午後のBBQでは、みんなで役割を決めて協力しながら、楽しい時間を過ごすことができました。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島を活性化するために、島の豊かな自然や伝統的な文化を活かした商品や体験プログラムを観光客の方に提供したいです。具体的には、私たちが経験した、島の魅力を伝えるふるさと塾での講話や、島の農業に触れることができるロベ農園の農業体験など、様々な体験型プログラムを通じて観光客の方に島の魅力を感じていただきたいです。私はこの4泊5日を通じて、島の美しい風景や温かい方々との交流、そして伝統に触れることで八丈島がもつ特別な魅力を感じました。このような経験を活かし、島を訪れる方々にも同じ感動を味わってもらうことで、さらに多くの人に愛される島にしたいです。

# 八丈島ライフ

## 教育学部幼児教育学科 2438074渡邊 紗希

8/19-8/25の4泊5日で八丈島に行ってきました。わたしにとって初めての島での生活は大変充実したものであり、貴重な経験となりました。

八丈島は東京都にある自然豊かな島で、美しい景観と温暖な気候が特徴です。わたしはこの島での生活を通じて、都会とは異なる、ゆったりとした時間の流れを感じ、地元の人々との交流や、自然を楽しむことができました。

1日目は羽田空港から約40分かけて八丈島空港に向かいました。着いてすぐにビジターセンターで八丈島の歴史を学び、そのあとにふるさと塾で八丈島の方言かるたの体験をさせていただきました。

2日目に行ったロベの農作業のお手伝いについてです。作業内容はロベという植物を土から掘り出し、苗に移し替えるという比較的シンプルなものでしたが、わたしにとって初めての経験だったのでとても印象深いものになりました。ロベを掘り出した後は、苗に移し替える作業をしました。ロベの根は固く、大きいものが多かったので根を根に巻き付けるようにしてポットに入れこみました。最初は根の固さに慣れず、上手く入れることができなかったけれど午後からは作業に慣れてきて上手く収めることができるようになりました。作業の合間に島の方々から島のスイカの差し入れをしてくださり、嬉しかったです。また、作業の終わりに島の歌を歌ってくださり、現地の方が歌う現地の歌を現地で聞くことができるというのは中々なく、貴重な時間となりました。



3日目には2班に分かれて自転車で島内巡りをしました。歩きやバスでは感じることのできない、八丈島の風を感じる ことが出来て気持ちよかったです。ジャージーカフェで食べた八丈島のレモンを使ったレモネードは程よい酸味と甘みを感じることができてすごく美味しかったです。また、お昼ご飯には八丈島の名物である明日葉のソースがかかったハンバーグを食べました。島内巡りから帰ったあとは、島寿司を作る体験をしました。本土で食べるような一般的な酢飯ではなく、お米に酢と砂糖を入れて甘くした酢飯を使うのが八丈島流だそうです。



4日目には八丈島の伝統手芸である黄八丈を実際に作っているところを見させていただきましました。細い糸1本1本に縦と横で糸を織りなして、すごく集中力のいる作業だと感じました。

夜には、島の方々と一緒にバーベキューを楽しむ機会がありました。大きな冷凍の鶏肉を買って、四角く切り、焼き鳥状にして食べました。また、島の方が持ってきてくれた八丈のマンゴーは手で剥けるほど皮が柔らかく、とても甘くて美味しかったです。明るいうちから始めたバーベキューもすぐに暗くなってしまい、時間の流れが早く感じました。

八丈島での生活は、自然と共に過ごす贅沢さを存分に味わうことができました。4泊5日という短い期間でしたが、わたしにとって忘れられない思い出となりました。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島をより活性化し、住みやすい場所にするためには、交通機関の発達が重要だと考えます。現在、島内の交通は主にバスやタクシーが中心ですが、バスの本数が少なく、移動の利便性が低いと感じることがありました。特に観光客や高齢者にとっては、限られた交通手段が不便に感じられる場面が多く、観光業の発展や高齢者の生活環境向上を目指す上で、交通網の強化は不可欠だと考えます。

具体的には、バスの運行本数を増やし、主要観光地や住宅地をカバーする路線の充実を図ります。また、電動バイクやシェアカーといった新しい交通手段を導入することで、環境負荷を減らしつつ、自由度の高い移動を提供できると考えます。さらに、デジタル技術を活用した交通情報の提供や予約システムを導入することで、住民や観光客が利用しやすい環境を整えられると思います。これらの取り組みによって、島全体の活性化と住みやすさが向上すると期待されます。

# 八丈島で学んだこと

教育学部幼児教育学科 2438085 青木音羽

【1日目】飛行機に乗って八丈島に到着！

まずはビジターセンターに伺い、八丈島とはどのような場所かを学んだ。次にふるさと塾に伺い、八丈島の歴史についてより深く触れ、八丈島の方言かるたをみんなで楽しんだ。午後はふれあい牧場での昼食や大坂トンネル付近での写真撮影などを通して、八丈島の景色を実際に目で見て学ぶことができた。

【2日目】午前には歴史資料館で八丈島の歴史についてより詳しくお話を伺った。

また午後はお土産を購入し、そのあとめゆ工房で黄八丈の歴史や作り方を学んだ。黄八丈について今まで知る機会がなかったので、とても貴重な経験だった。また、その日の夕食について意見が分かれ少し対立してしまっていたが、最終的にみんなで話し合いおいしいご飯を作ることができた。話し合いを通して、1日目よりグループの団結力が高くなったように感じた。

【3日目】雨の影響で午前行う予定だった農作業が延期になり、宿舎で待機することになったので、その時間にみんなでカードゲームなどをして過ごした。この時間をみんなで楽しく過ごせたことでより絆が深まったように思う。午後は八丈島の郷土料理である島寿司をつくる体験をした。島寿司を作ることはもちろん食べることも初めてだったので新鮮でとても楽しく、貴重な体験をさせて頂いた。

【4日目】4日目は午前中に農作業体験を行った。国内のロベは 9割が八丈島産のものであることを知り、とても驚いた。午後は八丈島内をサイクリングした。直前まで雨が降っていたとは思えないほどの快晴で八丈島のきれいな景色を存分に楽しむことができた。最後の夕食は4日間でお世話になった島の方々を招いてのBBQ。きれいな星空もみんなで見ることで島の方々との別れが名残惜しくなった。

【5日目】最終日は10時間のフェリーでの船旅。途中気分が悪くなってしまうこともあったけれど、みんなでカードゲームをしていたら気分が紛れた。船で夜景を見ながらみんなで写真を撮り最後まで沢山の思い出を残すことができた。



## 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイディア」

私は八丈島をより活性化するために、八丈島の伝統を次の世代に受け継いでいく必要があると考える。今回のFSでの八丈島プロジェクトを通して、私自身八丈島の魅力や特色についての知識を深めることができ、自ら八丈島でしかできないことを体験することができた。このプロジェクトに参加することがなければ八丈島をここまで深く知ることのできる機会はなかなか訪れなかったと思うので、私は自分が4泊5日で得た知識や体験がもっとたくさんの人にも広まってほしいと思う。また八丈島の美しい景色や伝統を確実に守り継いでいくためにも、現地に伺い、現地の方々から直接お話を伺うことが大切であると考えている。ネットで調べるだけでは足りないくらい八丈島にはたくさんの魅力があると思うからだ。

そのためにも今回のFSのような八丈島でしか体験できないことを詰め込んだプロジェクトがもっと活発に展開されるとよいと思う。学生だけではなくだれでも八丈島に興味のあるひとたちが参加し、八丈島を知るきっかけになったら素敵だと思う。その他にも八丈島のキャラクターや八丈島といえば！で連想することのできるような八丈島の魅力を積極的にSNS等でPRすることも、八丈島について一人でも多くの人を知るきっかけになると感じる。

## 八丈島での5日間

教育学部幼児教育学科 2438090 栗本真歩

【1日目】飛行機を降りて都会とは違う島の空気を感じた後、ふるさと塾へ行った。そこでは大澤幸一さんから八丈島についてのお話を聞いた。私は八丈の言語があることを知らなかったため、かるた遊びを通して言語に触れられてとても面白かった。その後訪れたふれあい牧場にはたくさんの牛がいて、展望台からの景色は絶景だった。空が曇っていたため、よく晴れた日にまた行きたいと思った。午後訪れた海辺からの景色もとても綺麗だった。

【2日目】資料館へ行き職員の方からお話を聞いて、八丈島の歴史を深く知ることができた。その後民芸あきへ行って家族や友達への八丈島のお土産を選んだ。明日葉やレモン、くさやなど島の有名なものがたくさんあった。空港の食堂で昼食をとったあと、めゆ工房へ行った。実際に黄八丈を織るところを見学させていただいた。その後行った足湯は、温泉の気持ちよさは勿論、そこから見える海の綺麗さに感動した。

【3日目】3日目は悪天候の影響を受けて午前中は部屋待機になった。班のみんなとトランプや人狼ゲームをして楽しく過ごすことができた。急な予定変更で少し戸惑いはしたが、雨のおかげでできたこの時間で仲が深まったといっても過言でないため結果的には良かったと思う。午前中に深まった仲を発揮して、午後の島ずし作りでは協力的に良い雰囲気を取り組むことができた。初めて食べる料理だったがとてもおいしかった。

【4日目】ロベ農園にて農作業体験をさせていただいた。雨も降り、蒸し暑い中でのなれない作業ではあったが、途中で頂いたスイカとマンゴーがとてもおいしかった。東京ではできない体験ができて楽しかった。午後の島めぐりでは自転車で海の見える景色を楽しんだり、島で人気なカフェに行っておいしいかき氷を食べたりした。夜はお世話になった方々も招いてバーベキューをした。星がとてもきれいで感動した。

【5日目】10時間かけて船で東京まで帰った。八丈島の海があまりに綺麗だったため東京の海がとても汚く感じた。船内では12人でずっと人狼ゲームをして過ごしたため竹芝につくまでがあっという間だった。最後に船から見た夕日や夜景はとても綺麗だった。4泊5日をこの12人で過ごせて良かったし、FSで八丈島を選んでよかったと思う



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島をより活性化するためには飲食店をもっと増やすべきだと思った。八丈島で食べたものはどれも美味しくかったため八丈島ならではの郷土料理が食べられるお店が繁盛すれば外国人観光客ももっと増えるのではないかと考える。また4日目の島めぐりで入ったカフェは平日であるにもかかわらず満席で、入ることを諦めて店を後にするお客さんも見受けられた。もっとお店が増えれば観光客が行きたいと思う場所も増え、それはまた島を訪れようと思うきっかけにもつながるかもしれない。

## 八丈島での4日間

教育学部幼児教育学科 2438097 瀧上和希

### 【1日目】

私たちは1時間ほど飛行機に乗り八丈島に上陸したあと I♡HACHIJO とプリントしてあるTシャツをお土産屋さんで見つけ、引率の先生方も含めみんなでお揃いにして買った。その後はビジターセンターやふるさと塾に行き、島の歴史や文化、方言、島の生き物などについて学ぶことができた。午後はスーパーで弁当を購入して山にある牧場でご飯を食べたり、展望台に行って良い景色をみたりした。また、タクシーを使い八丈島の名所を巡って都会では見ることができないような景色を見ることができた。みんなとは会って2日目で不安だったけどすぐ仲良くなれて良かった。

### 【2日目】

2日目は1日ロベ農園でお手伝いをさせていただいた。どんなことをするのだろうと思っていたらそこまで難しい内容ではなく安心した。気温がそこまで高くなかったのでとても作業がしやすかった。作業中にロベ農園の方が冷たい飲み物やアイス、作業後にスイカ、そしてマンゴーや金目鯛の刺身の差し入れをしてくださった。島の人たちの優しさをとても感じた1日だった。

### 【3日目】

3日目は電動自転車を使い自由行動をした。営業時間外で行けなかった場所もあったけど、その場で話し合い予定を変更してキョンを見に行ったり、ハンバーガー屋さんや海、カフェなど行ったりして楽しんだ。また夜ご飯は島の方に島寿司の作り方を教えてもらった。そこで島寿司だけでなく、ポテトサラダや切り干し大根などの副菜なども準備してくれて、また島の人の優しさやぬくもりを感じた日になった。

### 【4日目】

4日目は船で10時間かけて帰った。最初は10時間が長いと思っていたけど、みんなでトランプや UNO、人狼ゲームなどをして楽しんでいたらあっという間に竹芝についてしまい、FSが終わってしまったことに寂しさを感じた。だけど、八丈島の良さをたくさん知れたし、新しい友人もできとても良い旅だったし、いつかまたこのメンバーで集まりたいとも思った。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

タクシーが3台しか走ってなかったことやバスは1時間に1本あるかないかだったので移動面で大変と思う。だから、長期休み期間中だけでも増やしてみるのが良いと思う。また、24時間営業のコンビニやカラオケ、ボーリング、釣り具の貸し出しなどの娯楽施設をつくるのも良いと思った。

## 一生の思い出八丈

工学部数理工学科 2446048 小田嶋玲

<一日目>飛行機で八丈島まで向かった。初めて八丈島に降りたときは東京とは全く違う景色が広がっており、これから始まる八丈島での生活に期待が膨らむと同時に不安も感じていた。その後、現地の大澤さんの話を聞いて八丈の方言について学ぶことができた。かるたなどの馴染みがあるもので楽しく学ぶことができた。

<二日目>二日目は、八丈島の歴史や伝統である黄八丈について学んだ。皆さんが丁寧に教えてくれたことで興味をもって学ぶことができた。黄八丈の一つひとつの制作には時間がかけており、その繊細な技術にはとても驚かされた。

<三日目>三日目は、ロベ農園の手伝いをする予定だったが午前中雨が降ってしまったため、午前中は待機になり午後から島寿司づくりに取り組んだ。午前中は空いた時間にみんなでトランプをするなどして絆を深めることができた。午後の島寿司作りでは積極的にきんぼ作りや酢飯作りに取り組むことができた。

<四日目>四日目は、前日にできなかったロベ農園の手伝いをして、午後にはサイクリングをすることができた。農園は力仕事が多く大変だったが一生懸命取り組むことができた。サイクリングでは、大坂トンネルを超えない範囲であったがたくさんの名所を見て楽しむことができた。

<五日目>最終日は、朝から船に乗って東京まで帰った。船の中ではみんなでゲームをするなどして最後に思い出を作ることができた。とても充実した五日間を過ごすことができた。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島をより活性化させていくためには、島の魅力を島の外に発信していくことが大切だと考えている。八丈島では本州とは違った独自の発展を遂げている部分があり、それらを学ぶことはあまりない体験で非常に面白いと感じた。また、都会の喧騒に疲れたときや一人になりたいときに八丈島のような人の少ない環境に行くことはとてもいいリフレッシュになると感じた。これらを踏まえて八丈島でしか体験できないことを私も周りに伝えていこうと思った。

八丈島についてネットで調べても出てこないようなことを伝えることも大事だと感じた。今時、ネットで調べれば何でもわかる時代で現地の人からしか聞けないことも知れたので、それも伝えていきたいと考えている。

## 八丈島に染まり、、、 工学部建築デザイン学科 2447016 柏崎青陽

私は 9/2～9/6にかけての5日間初対面の方々と生活をしました。特に、私達の班は最終班であったこともあり、先の班からの事前情報を踏まえて快適に生活を共にすることができたと思う。

<1日目>

1日目は、足を運んだ場所が多い中でも特に挙げるとするならば、ふるさと塾を挙げたいと考える。ここでは島の歴史と特色について教えていただいた。また大澤さんのやさしさに八丈島生活での期待の胸が膨らんだ。

<2日目>

めゆ工房で黄八丈について学びを深めた1日だった。職人の仕事に対する熱意に私は感銘を受け、将来の夢が職人である私にとって、とても実りのある時間であったのと同時に、建築デザインのアイデアに大きく影響を与えたと捉えている。その後は、足湯に入り温泉に浸かることができたため、男子間での深い絆を築くことができた1日だった。

<3日目>

午前は予定していた農場の手伝いが雨によりさらに延期する形となり、待機指示が出された。待機時間は班全員で集まり仲を深める交流会に充てることができた。午後は郷土料理体験を予定通りに行うことができ、島寿司（鱈）を味わうことができた。こちらも予定では鯛を使用する予定だったそうだが私は島ならではの代用品を体感することができ喜びを感じた。

<4日目>

午前はロベ農園のお手伝いをさせていただいた。私は田舎育ちであるため農作業をお手伝いさせていただく機会が多々あったが、特殊な植物の刈り取りは印象深いものとなった。先の班の進捗を目の当たりにした際には圧倒されたが、雨にも降られ、限られた時間に男手の少ない中、協力して本気になって刈り取りに打ち込んだ姿勢は後に生きるものであるだろうと捉えている。午後は島内をサイクリングした。綺麗な浜やカフェを巡ることができ、島の良さに触れることができた。

<5日目>

6:15の起床とともに島を離れる実感が湧き始め、物寂しい気持ちの朝を迎えた。帰りは船で10時間ほど揺られながら帰った。5日間共に過ごした班のみんなと別れたくない気持ちも同時にこみ上げるほど、毎日が非日常で充実した楽しい5日間の旅となり夏の最高の思い出となった。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島は近年、農業・漁業よりも観光業が盛んになりつつあるため、ホテルないしは空き家を宿舎にリフォームするなどして環境に調和しながら民宿として観光客を迎え入れるシステムを充実させたいと考える。また、環境保全に努めた結果として八丈島の魅力を体感した観光客が長期的滞在を検討し、島内外での活性化につながるのではないかと考える。住みやすい場所を実現するには流人のイメージ払拭と改変が必要であると考え。若者の多くは流人についての知識が乏しくはあるものの根付いた本島とのギャップを埋めるためにインターネットを通じた情報発信も手だと考える。

# 1 日間の八丈島体験

工学部建築デザイン学科 2447017 叶内琉稀

## <1日目>

八丈島に到着して最初にビジターセンターに向かった。ビジターセンターは島の動物や植物などの生態系を学べる施設だった。ふれあい牧場では絶景を見ることができた。天候が良かったのもあり、八丈島を見渡せた。ふるさと塾では大澤さんのお話を聞き、島独自の文化や歴史、方言を学んだ。



## <2日目>

ロベ農園で農作業の体験をさせていただいた。苗木をカップに移し替える作業を手伝わせていただき、出荷までに長い年月をかけて栽培していることを知り驚いた。初めての農作業で大変ではあったが農園の方々が親切に教えてくださり、普段の生活では経験することのできない貴重なものになった。作業の中でスイカとアイスをくださりとてもありがたかった。



## <3日目>

午前中はグループでの行動で、自転車で自由に島巡りをした。道幅も広く本土よりも車通りが少ないため、気持ちよく自転車を走らせることができた。町中の景観や島のお店の雰囲気などを感じることができ楽しめた。午後は郷土料理体験として、島の方と一緒に島寿司とサツマイモの料理を作った。

## <4日目>

めゆ工房に行き黄八丈見学をした。実際に織っているところも見させていただき、職人の技量を感じることができた。安土桃山時代からある織機や昔からの「3色」と言う伝統が受け継がれていた。夜はお世話になった方をお招きしてBBQをした。

## <5日目>

お世話になったアキラさんに挨拶をした後、竹芝に向けて出港した。約10時間の船旅だったが、船からの夕日や本土の夜景を見ることができ、船での時間は意外と短く感じられた。

八丈島で5日間過ごしてみて、島ならではの文化や生活様式に多く触れるのと同時に島の人々の温かさも感じることができた。縦に大きい建物が少ないことや、本土ではセミが多い中八丈島は異様にカナブンが多く、気温も気候が違うため本土よりも高く感じられた。同じ東京でもこんなに違うのかと驚かされるばかりで、非日常な5日間だった。しかし複数の体験をさせていただいた中で、移動面での部分では少し不便さを感じた。そこで私は次の活性化案を提案しようと思う。

### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

地域の人たちが多く利用する場所（病院・スーパー）や観光名所の近くのバス停に屋根・ベンチを設置気が付いたこと

- ・高齢の方が多い印象があった。→自動車・自転車の移動が難しい
- ・温泉入り放題とセットになっているバス乗り放題のバスがある。
- ・タクシー運転手の減少でタクシーを捕まえることが難しくなっている。
- ・本土と気候が違い、体感温度が高く感じられた。→日差しを防ぐことができる日陰スペース
- ・島なので天候が変わりやすい。→急な雨風を防ぐスペース
- ・観光場所有り複数あり距離があるため、車やバスでしか行けない場所がある。

上記の理由から八丈島におけるバスへの重要性が高いと考える。観光客だけでなく地元の人も活用するバスに焦点を当てることで島の活性化を図る。広い道幅も多くあったので屋根・ベンチを設置するスペースは十分にあると考えた。またバス停は宣伝効果もあり歴史や文化を感じることができる工夫をすることで、観光客にさらに八丈島を知ってもらえようと考えた。

例) 黄八丈をイメージした黄色・樺色・黒色を使う、昔ながらの八丈島の方言を並べるなど

## 初めての八丈島

工学部建築デザイン学科 2447019 菅野晃司



【1日目】羽田空港から飛行機に乗って1時間程で着く八丈島。暑い中、歩いて訪れたところは八丈ビジターセンター。ここでは、八丈島に生息する動物や植物の生態について知りました。その後は、ふるさと塾で島の文化や歴史をお話や郷土かるたを通して学ぶことができました。午後には、八丈富士の上部に位置するふれあい牧場にタクシーで行きました。大自然の中にある町全体を一望することができ、その圧倒的な美しさに感動しました。

【2日目】島の方の誘導のもと歩いて大興園に向かう際、八丈オクラやフェニックス・ロベレニーなどの説明をしてもらうことで、より関心を高めた状態で農作業に取り組みました。作業内容としては、ロベの苗を土から掘り出して、雑草との仕分けを行ったあと育苗ポットの一つ一つ丁寧に植えていく作業をしました。八丈島の自然の美しさは、島の方の努力の結晶であり、農作業の達成感や島の方の温かさを改めて感じることでできる貴重な体験でした。



【3日目】八丈島の魅力を見つけに行った自由行動。

台風の影響を受けた怪しい天気の中、12人みんなで行動しました。植物園にキョンを見に行ったり、海が眺められるお店でハンバーガーを食べました。夕方には、島の郷土料理である島寿司作りを体験しました。新鮮な野菜と自らの手で握った島寿司を囲った食卓は、とても良い思い出です。

【4日目】台風の影響により、1日早く出航することになってしまいました。楽しみにしていた予定がなくなったことに悲しい思いはありましたが、八丈島で過ごした3日間感じたことや気が付いたことの話し合いを通して自分にはない視線での八丈島の魅力を知ることができて良かったです。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島で3日間過ごして気づいたことは、移動手段の不便さです。今の八丈島をより住みやすくするためには、島内の交通アクセスの向上を図るべきだと考えます。八丈島には、きれいな海や緑豊かな山、リラックスできる温泉や地元ならではの食事などと魅力はたくさんあります。ですが、それらは距離が離れていることから移動手段が整っていないと満足に島を楽しむことができません。

島内の交通アクセス向上の具体的なアイデアとしては、路面電車の設備とバスの本数を増やすことです。これらの移動手段は全ての人が平等に利用することができるため、観光で訪れた人や車を所有していない人が利用できるのは勿論、天候による悪影響も避けることもできます。島内の交通アクセスを充実させることが八丈島をより活性化させ、より住みやすい場所へと変化すると考えました。

## 八丈島での思い出

看護学部看護学科 2463018 菊嶋柚希

【1日目】羽田空港から八丈島空港に到着しビジターセンターに向かい、八丈島の自然の動画を見た。その後、ふるさと塾に行き大澤幸一さんから八丈島の歴史についての話を聞き、八丈語のかるたをみんなで楽しんだ。八丈島は東京都であるのにも関わらず、植物や言葉など普段生活している所とは多くの違いがあり驚いた。ふれあい牧場では八丈島の素晴らしい景色を一望しながら昼食を食べた。昼食後には大坂トンネルや南原千畳敷海岸などを見学した。



【2日目】朝から雨が降っていて農作業体験が延期になり、午前中は支庁にある八丈島歴史民俗資料館に行き資料館の方から直接八丈島の歴史を聴き学んだ。八丈島についての知識がなかったことで話を聴き現在の八丈島が出来上がるには多くの人が関わっているということなど多くの歴史を学んだ。午後のはめゆ工房に行き黄八丈の歴史や織り方を実際に見て学んだ。その後八丈島の海を眺めながら足湯を堪能した。夜ご飯の買い物では班の仲間同士で少しぎくしゃくしてしまったり消灯時間を守ることができなかつたりと課題がたくさん見つかった一日になった。

【3日目】2日目と同様、朝から雨が降り午前中は部屋待機になってしまった。しかしその時間を使いカードゲームや人狼で遊び、班のみんなとの親睦を深めることができた。午後は島寿司づくりを体験した。実際に自分たちで島寿司を作ってみてお寿司を作る難しさや郷土料理にふれ八丈島の魅力を感じることができた。また、八丈島の人と接することで人々の優しさや温かさを感じることができた。



【4日目】午前中は2日目、3日に雨でできなかったロベ農園で農作業のお手伝いをさせていただいた。ロベは花束の後ろに二本飾られているということを国仁さんから教えてもらった。休憩ではとても甘くて美味しいスイカとマンゴーの差し入れをいただいた。午後は3人グループに分かれ島内巡りをした。ジャージーカフェや空間舎に行きソフトクリームとかき氷を食べた。その後底土海水浴場で雄大な海を堪能した。夜はBBQをし、交代で焼いたり、満天の星空を見たり、ゲームをして盛り上がりたりと楽しい時間を過ごすことができた。

【5日目】約10時間の船旅で、フェリーから見る海や八丈島、夕日、夜景はすべてきれいで感動した。船内では班のみんなと最後の時間を過ごした。今回4泊5日目の八丈島F Sにおいて、八丈島の歴史や伝統、人々の温かさなど島の魅力を知ることができ学ぶことができた。そして共同生活を通して、協力して物事を成し遂げる、生活する楽しさを知り、大切な思い出を作ることができた。



### 「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

八丈島を活性化させるために、海や山、温泉などの大自然を利用した自然体験型観光やシュノーケリング、釣りなどのマリンスポーツを充実させ、SNSなどを活用して国内外の観光客を引き寄せることが大切だと考える。理由として今回八丈島に行ってみて海や山などの自然には多くの人を感動させる魅力があると感じたからだ。この自然を利用し多くの人が八丈島を訪れることによって八丈島が活性化されると考えた。

より住みやすい場所にするために、八丈島が東京などの都市部から近い存在で気軽に行き来できる場所でありながら、大自然を感じて生活を豊かにすることができる場所だというイメージが定着するとよいのではないかと考えた。そのためにはリモートワークを推進し島外からも仕事ができる環境を整えることが大切だと考える。また八丈島では車での移動がほとんどで車を運転することができない人や観光客などは不便だと感じた。そのためにバスの本数を増やすことや電車の開通など身近で誰もが利用することのできる公共交通機関の開設が大切になってくると考えた。

## 心を癒せた八丈島での体験

### 看護学部看護学科 2463042 村上詩

<1日目：ビジターセンター・ふるさと塾・ふれあい牧場 >

八丈島に到着し、島の自然や気候を体感しながら徒歩でビジターセンターへ向かった。ビジターセンターで見た「光るキノコ」の展示がとても神秘的で特に興味深かった。その後ふるさと塾に移動し、大澤幸一さんによる島の歴史や方言についての貴重なお話を伺った。ビジターセンターでの学びや大澤さんの講話から島の魅力を知ることができ、これからの活動が一層楽しみになった。ふれあい牧場では八丈島に到着して初めて動物と触れ合う事ができたと共に八丈島の景色を一望した事で島の自然の多さと海の青さを実感した。タクシーで江戸時代に築かれた玉石垣を間近で見学でき、当時の人々の発想のユニークさに関心を持った。



<2日目：ロベ農園 >



八丈島空港から徒歩で向かえるロベ農園で農作業のお手伝いをさせて頂いた。今まで農作業をした経験がなかった為、役に立てるか不安だったが、農園の方々が丁寧なアドバイスや気さくなお話をしてくださったおかげで楽しみながら農作業を進める事ができた。私たちが作業した小さなフェニックス・ロベレニーが5年という年月を経ると大きく成長する事を知り、農作業のやりがいを実感した。また、スイカやアイス、飲み物の差し入れをくださり、農園の方々の優しさにも触れる事ができた。毎日暑中、農作業を怠らない農園の方々は本当に凄いと感じた。夜には1日お世話になった農園の方々に招いてお好み焼きを作った。班の皆と協力して作ったお好み焼きを振舞うと、農園の方々が「お好み焼きを久々に食べたから美味しい」と喜んでくれたのでとても嬉しかった。

<3日目：島内巡り・島寿司作り >

赤松自動車にて自転車をレンタルし、班全員で島内を巡った。八丈植物公園で飼育されるキョンの見学や底土港での海の絶景を楽しんだ。その後、ハンバーガーの店やジャージーカフェに行き、島の美味しい食べ物も味わう事ができた。班の皆と行きたい所を提案し合い、八丈島ならではの観光ができた経験はとても素敵な思い出になった。



島寿司作り体験では講師の方々と班員で協力しながら調理を進めた。普段、大人数で手分けして料理をする機会がない為、時間があつという間でも楽しかった。講師の方々による丁寧な説明や、自宅から美味しいおかずを作ってきてくださった事から島の方々の暖かさを改めて感じた。

<4日目：竹芝へ出航 >



4日間お世話になったサンマリーナと浅沼明さんに感謝の気持ちを伝えてお別れし、約10時間かけて本州へ向かった。船が島から離れていく景色がとても悲しく、このFSを通して八丈島で出会った方々にもう1度直接感謝を伝えたいと思った。また、この4日間で想像より遥かに班の皆と仲良くなる事ができた為、まだ八丈島にいたいという気持ちが強かったが、船内でもゲームやお喋りをして思い出を作る事ができた為、嬉しかった。竹芝付近に着くと東京の夜景を堪能でき、帰ってきたなど実感した。八丈島で仲間と過ごした貴重な4日間は家族や友人に自慢したくなるような事ばかりだった。このFSを通して八丈島は人々と自然が共存する素敵な島であるという事や集団生活の大切さ、楽しさを学ぶ事ができた。4日間共に過ごした班の皆と先生方に沢山の感謝を伝えたいと感じた。

### 八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイディア

八丈島での生活を通して、島を移動するには車が必需品であると感じた。その為、高齢に伴い運転を避ける方や無免許の方、観光客の方々は移動が多少困難になってしまうと考えた。私はそのような人々に向け、シニアカーの貸出や島内を巡る無料シャトルバスを取り入れる事を提案する。そうする事で、島内の移動に心配を抱く人が快適に過ごせるのではないかと考えた。また、私は4日間で八丈島ならではの動植物に沢山出会う事ができた。島民の方とお話をする中で空き家が増えているというお話を伺ったのでその空いたスペースを利用して、島内に生息する動植物に特化した触れ合い博物館を建てたり、島民の方や観光客が交流できる空間を設置したら島を理解する機会が増えて面白いと思う。更に、その施設内で八丈・島ことばかるた大会などのイベントを開催したらとても盛り上がるのではないかと考えた。

## 非日常の島

経済学部経済学科 2427227 長井広羽

### 【一日目】

朝早くから羽田空港に集合して、飛行機に乗った。飛行機からは虹が見えて私たちの旅を出迎えてくれているかのように感じた。ふるさと塾ではカルタを通して八丈島の言語を学ぶことができ、頂いたフェニックスの花はとても美しく印象に残っている。初日から島の人の温かさと文化に触れることができとても面白かった。初日で買い出しや共同生活に苦戦したときもあったが、先生や大人のサポートも乗り越えられてよかった。

### 【二日目】

最初に支庁で八丈島の歴史について学んだ。御神体の話が印象的で、一日目よりも八丈島の歴史について詳しく学ぶことができ勉強になった。午後はお土産を購入した後、めゆ工房で黄八丈の歴史や作り方を学んだ。黄八丈を年貢の代わりに送っているという話がとても印象的だった。また、黄八丈にも多くの種類があり、中でも地紋のある黄八丈はおしゃれで印象的だった。

### 【三日目】

三日目の午前には雨で宿舎待機になった。そんな中でもカードゲームをしたりして時間を有効活用して仲を深めることができたので良かったと思う。午後は島寿司作り体験をした。地元の方々や友達と作業分担して寿司を作る作業はとても新鮮だったし、みんなで一つの物を作り上げることができてよかった。悪天候に見舞われてスケジュール通りいかなかった一日だったが、臨機応変に動くことができてよい一日だったと思う。

### 【四日目】

四日目の午前中はロベ農園で農作業のお手伝いをした。男チームはロベを収穫する作業をした。最初は掘り起こすのに苦戦したが、アドバイスをもらいみんなで協力して収穫することができた。午後はレンタルサイクルで八丈島巡りをした。生徒だけで計画を組んで島をめぐるという体験は、最初は不安も大きかったが、事前にみんなで島について調べていくうちに楽しみになってきて実際に計画通りに島をめぐることができてよかった。みんなの仲をより一層深められた一日だったと思う。

### 八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア

八丈島に行って印象に残っていることは、海がきれいなのに海付近で遊ぶ人があまり見られなかったことだ。私はライフセーバーをやっていて今年の夏いろいろな海を見てきたが八丈島ほど澄んだ海は見たことがなかった。そこで八丈島をより活性化するために海付近の発展を提案する。具体的な案としては、海の家設置と水上アクティビティの運営、その他イベントの開催などがあげられる。八丈島の海は澄んでいて、遊泳エリア内であればけがの原因となる岩なども見られなかったため、海上アクティビティを運営するのにぴったりな海だと考えた。そして八丈島の浜に海の家がないのも印象的だった。明日葉などの名産物を活かした屋台などを出店することによって、海の活性化にもつながるし名産物も堪能してもらえると考えた。



## で一じけ八丈島

文学部日本文学文化学科 2413088 加藤優楽

### <1日目>

まず空港近くのビジターセンターを訪れ、歴史や文化といった島の概要を学んだ。地元の子どもたちが作成した展示品が多く並べられていて、より近い距離間で島の風土を感じることができた。次にふるさと塾を訪れ、観光大使の大澤さんから島の言葉の歴史を中心に話を伺った。どのようにして島言葉や方言を生き残らせるのかなど、言語というものについて理解を深めることができた。

### <2日目>

宿舎から徒歩でロベ農園に向かい、農作業のお手伝いをさせていただいた。猛暑の中ではあったが、農園の方々の丁寧なご指導があって何とか作業を終えることができた。特産であるロベを育てる大変さを1日の作業を通して学ぶことができた。

### <3日目>

自由行動。台風の影響で、この日が島で過ごす最後の日となった。滞在期間は1日短くなってしまったが、メンバー全員で島内のサイクリングを楽しむことができた。八丈島にしか生息していないキョンを見に行った。

### <4日目>

朝早く、惜しみつつも東京本土行きのフェリーへと乗り込んだ。波に揺られる時間は班の皆とお話をしながら過ごしたのであつという間に感じた。本来よりも短い期間ではあったが、短かった分より濃い時間を過ごすことができたと思う。人間味と学びにあふれる4日間だった。ちなみに、私は「きれいな、美しい」という意味の「で一じけ」という島言葉を覚えた。



### 八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

私は、八丈島をより活性化し住みやすい場所にするためのアイデアとして、島以外の都内の小学校で東京の離島について学ぶ授業やイベントを行うと良いと思う。離島である八丈島を活性化するためには、島の良さを多くの人に伝えることが重要だ。そこで、都内の小学校で八丈島を含む東京の島について学ぶ授業を取り入れたり、小学校のお祭りなどのイベントで島の特産を扱ったりすることを提案する。例えば、島言葉のかるたをつかって校内でかるた大会を開催するのはとても良いと思う。小さい頃から島の文化に触れることで、離島での生活のネガティブなイメージを和らげることができるはずだ。地域の活性化、そして八丈島の発展にはこういった地道な取り組みが重要だろう。